

豊かさについて

高部英明

レーザー研家族の日（泰山会主催）。参加した家族の方々、大変喜んでいました。これも、ホスト役の皆さんが「楽しんでもらおう」と、白けずに演出に努めたからだ、関係者の一人として心から喜んでいきます。

話は変わりますが、10年ほど前、ミュンヘンに滞在していた時、フィッシャーさんという親切な家族に大変お世話になりました。朝は、モーツアルトのBGMで食事、天気良ければ庭で食事。時には、食べ物からテーブルクロスまで持って、近くのケラー（元祖ビアガーデン）で食事と、何かと皆で人生を演出するよう努めていました。夏休みは国民の70%が外国へ出かけ、1ヶ月の長期休暇です。

こんなドイツですが、戦後は昼夜なく働いていたとのこと。復興し、豊かになったら、「それー、人生楽しむべし」と、努力の範囲が広がったわけです。ところが、日本はどうかというと、「豊かになった」と言われるが、日本の企業が札束で豊かになっているだけで、今ひとつ我々庶民には実感がない。このままでは、「かつて日本という豊かな国が東洋の片隅にあった」と言われるだけで、その豊かさが日本人の財産として残らないのではないかと心配している。

かつて、オランダがヨーロッパの一小国ながら貿易で栄え、その富が国土を広げる（干拓する）ことで恒久財産として残ったように、日本も貿易黒字を全部つぎ込んで、例えば、瀬戸内海を埋め立て、アメリカのような広々とした新都市を作っていくぐらいのことを実施してもいいのではないだろうか。

話を身近に戻して、レーザー研の豊かさをどう残すかを考えたい。レーザー研は激光 XII 号などの装置や研究テーマなど豊かである。しかし、ハード（装置など）は使えばどんどん古くなり、そのうち、スクラップか博物館行きだ。しかし、それを使って出てきたソフト（学術など知的財産）は永久に残る。私達はそのようなソフト、つまり、研究成果という豊かさを自分だけのものとせず、皆の財産として行く努力をせねばならない。つまり論文にする、レポートにすることです。「己の言葉をマトメルことは意味がないという意見を、まず、つぶさなければいけない」（ショーペンハウエル）です。

よく、忙しくて.....、書く暇がなくて.....、と言いながら、一日中、会議だ、何だ、と走り回ることがある。日が暮れて、何となく、充実感(?)いや、消化不良の疲労感。「研究は楽しくやるべし」とは、中井センター長の言。研究に着手した時の初心を忘れることなく、研究にはげみ、初々しい感動を文章として残し、人類の財産としていきたいものです。